

研究協力のお願ひ

この研究は、大阪医科薬科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたくうえで実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願ひ致します。

大阪医科薬科大学 内科学 教室

記

研究の名称	B 型慢性肝炎におけるテノホビル・アラフェナミドフマル酸塩 (TAF) 使用後 48 週での有用性に関する後方視的検討
対象	2017 年 7 月 12 日から 2022 年 8 月 19 日までの期間に B 型慢性肝炎に対し TAF を内服された患者さんの診療データを研究に利用いたします。本研究では、300 例を予定しています。
研究期間	研究実施許可日 ~ 2027 年 10 月 31 日
試料・情報の利用 目的及び利用方法	利用目的 : B 型肝炎ウイルス (HBV) 持続感染者は世界で約 4 億人存在すると推定されています。わが国でも多くの方に HBV 感染を指摘されています。HBV に持続感染した患者さんの約 1 割では、ウイルスの活動性が持続して慢性肝炎の状態となります。そして年に約 2% の患者さんが肝硬変となり、やがて肝細胞癌や肝不全を合併し死亡してしまいます。そのため、HBV に対する適切な治療介入が重要であり、現在多くの HBV 持続感染に対し、テノホビル・アラフェナミドフマル酸塩 (TAF) が用いられます。TAF は HBV の増殖を抑制します、この結果、ウイルス量は速やかに低下し、肝障害も改善します。しかし TAF は比較的新規の薬剤であり、長期投与による有用性に関しては未だ不明な点が多いです。今回、我々は TAF 使用後 48 週における HBV のウイルス量がどれだけ減少しているかを明らかにします。その結果、

研究参加拒否書

大阪医科薬科大学 学長 殿
大阪医科薬科大学病院 病院長 殿

大阪医科薬科大学
研究責任者 西川 浩樹 殿

研究の名称	B型慢性肝炎におけるテノホビル・アラフェナミドフマル酸塩(TAF)使用 後48週での有用性に関する後方視的検討
-------	--

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否します。

年 月 日 対象者

住所

氏名(自署)

ご本人が自署できない場合は、代諾者の方がご記入ください。

代諾者(続柄:)

住所

氏名(自署)